



農作業に欠かせない労働力であった農耕馬。背景画も当時の風景を想像させてくれる。



平岸児童会館に併設されているので、窓口に声をかけてから入館を。

農馬具などの展示から先人たちの苦勞をしのぶ

豊平区

ふくずみかいたくきねんかん

福住開拓記念館

六軒村と呼ばれた場所

昭和46年(1971)に、豊平区福住地区の明治から昭和にかけての歴史を今に伝えるべく開館。当時の生活の様子を描いた版画70点のほか、馬車や農機具、明治～昭和の生活道具などを数多く展示している。

明治4年(1871)に岩手県盛岡から月寒に移住した44戸のうち、6戸が月寒川を挟んで東側の少し離れた場所にあったことから、この地区は通称「六軒村」と呼ばれた。当初は歩行も困難な密林地帯や、一部はススキが生い茂る湿原が広がっていたことから「茅野」とも呼ばれていたという。その後「つきさぶにしどおり」とされ、昭和19年(1944)に「豊平町福住」と変更された。地名は明治26年(1893)からこの地にある福住寺にあやかっただとも、幸福が住むようにとの願いが込

められたとも言われている。

館内では大正・昭和期の福住地区の民家の様子を再現したコーナーや、迫力ある農耕馬コーナーなどが見どころだ。



大正・昭和初期の福住地区の民家を再現。

住所：豊平区福住1条4丁目13-17

福住まちづくりセンター併設

電話：011-855-6615

休館日：土・日曜、祝日、年末年始

観覧時間：9:00～17:00

アクセス：地下鉄東豊線「福住」駅
3番出口から約1km

資料収蔵数：約830点

開館年：昭和46年(1971)

小学生が描いた絵画から平岸のあゆみを学ぶ

豊平区

ひらぎしきょうどしりょうかん

平岸郷土史料館

リンゴの名産地として

明治4年(1871)、仙台藩・水沢伊達氏の家臣を中心に集まった200人余が移住し、翌年に開村した平岸村(現在の豊平区平岸)。平岸郷土史料館では、昔の人々の生活用具や馬ソリ、時代の変遷を描いた小学生の絵画などを展示し、地域の歴史を伝えている。

環状通のリンゴ並木が象徴するように、平岸はかつてリンゴの一大産地であった。明治8年(1875)頃に開拓使本庁内にあった果樹園から配布された苗木で栽培が始まり、明治17年(1884)頃には多くの果樹園が誕生する。地域の特産品となった「平岸りんご」は本州のみならず上海やウラジオストクなど海外へも輸出されるほどの人気を誇っていた。資料館にはリンゴ農家が使用していた用具類も展示されており、平岸とリンゴの

あゆみを学ぶことができる。

また、平岸近郊で発見された縄文土器や石器も展示されている。土器や石器を眺めながら数千年前の人々の営みに思いを馳せてみるのもよい。



文様もくっきりと残る縄文土器片の数々。いずれも平岸近郊で出土したものだ。

住所：豊平区平岸3条9丁目15 平岸児童会館内

電話：011-812-2493

休館日：日曜、祝日、年末年始

観覧時間：8:45～18:00

アクセス：地下鉄南北線「平岸」駅
3番出口から約600m

資料収蔵数：約440点

開館年：昭和57年(1982)